

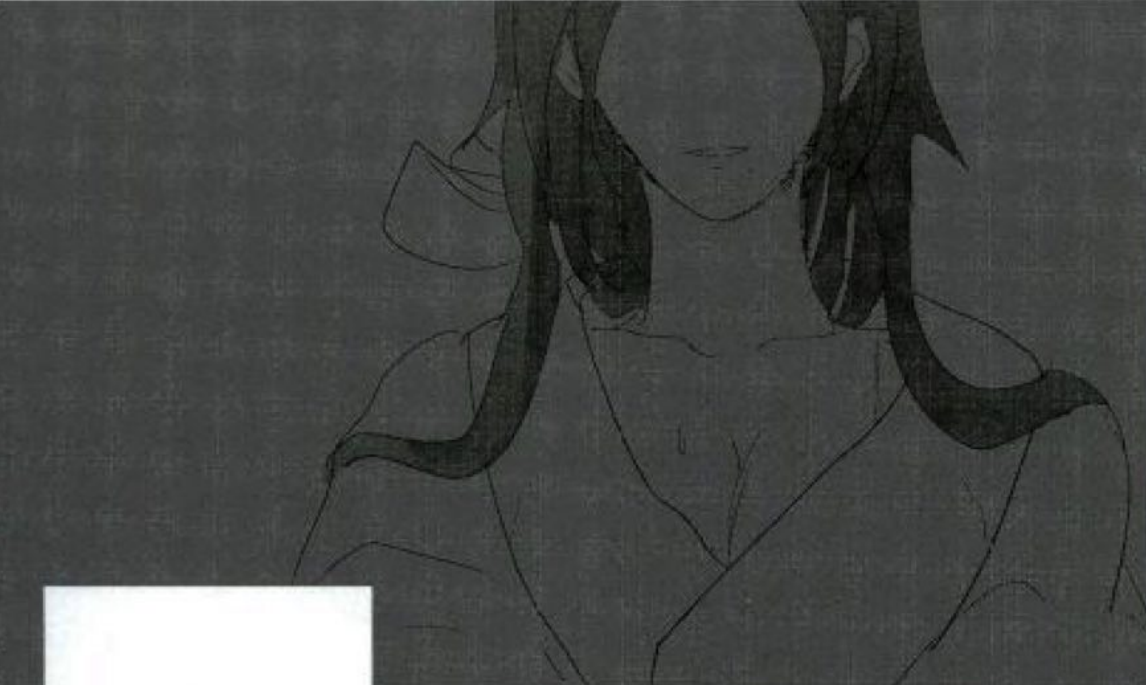
淫獣覚醒

成人

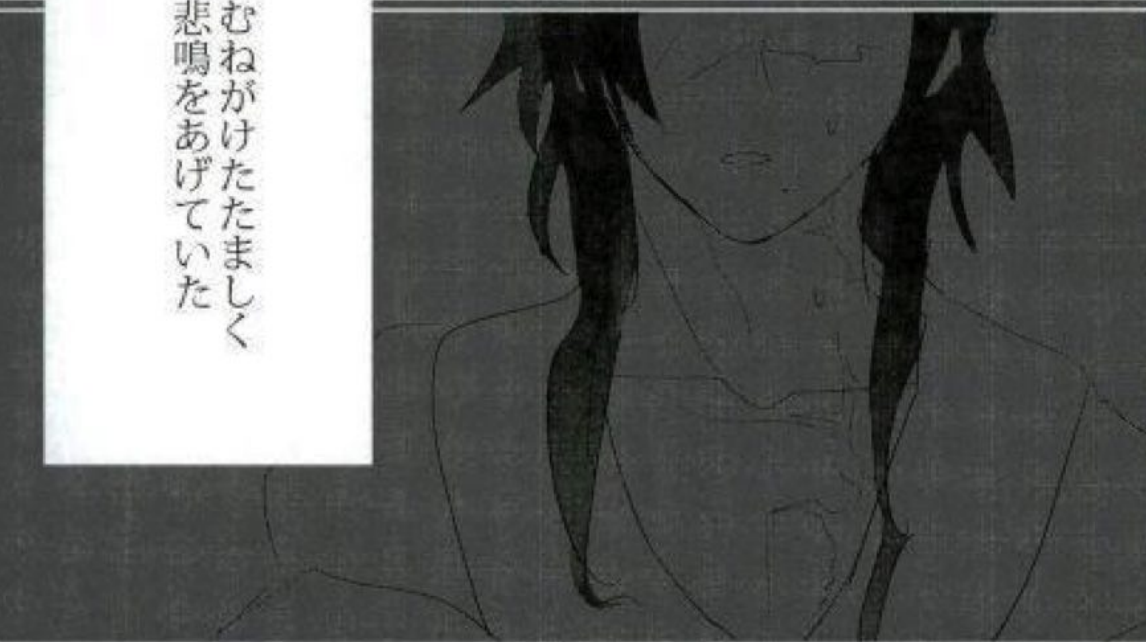
R-18
指

私は、あの子の背中を押したただけだわ





夢にしてはやけに現実みを
帯びていて



むねがけたたましく
悲鳴をあげていた



気がついた頃には

俺は夢の中で
姉上を抱いていた

夢というものは、運勢だとか
不確かで空想めいたものとは別に
精神状態を表しているという説がある

身内との色めいた夢には
性意識を示していたり

単なる欲のあらわれだったたり



最近やたらと頻度が高くなったのは、良くない事続きの所為だと思っようにして、毎晩のようにソレの処理をする

はぁ

しかしそれだけでは飽きが来てしまったのか。そこで終わればよかったのに、

はぁ

先日の夜、拭き切る予定だった自身の体液を見ていたら

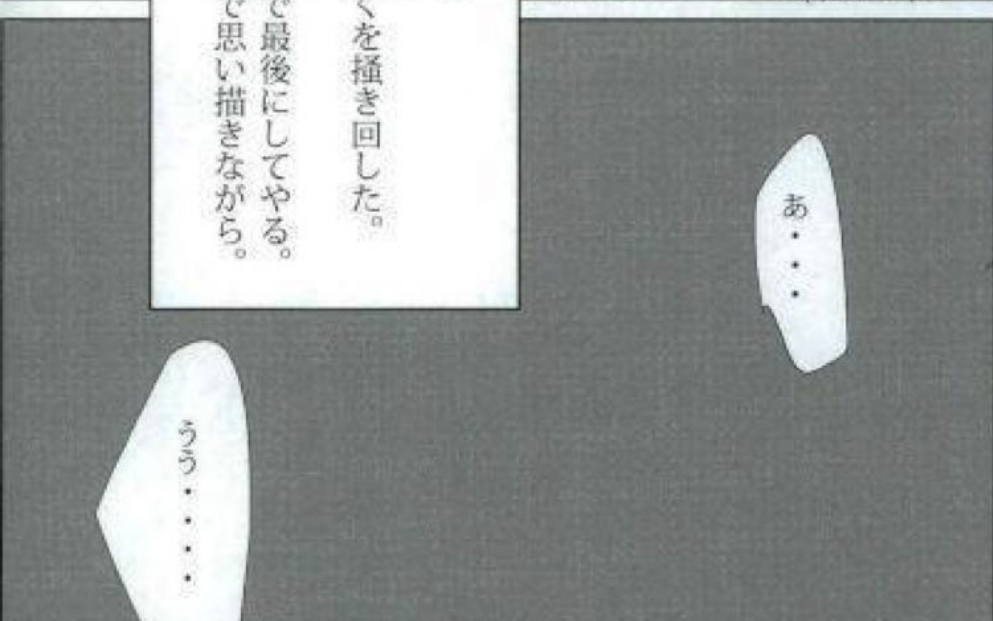
妙に体の中が疼くような感覚がしてきて



そのまま動かす指を
止める事が出来ずに
一心不乱に疼きの近くを掻き回した。
こんなもの、最初で最後にしてやる。
なんて事を、頭の中で思い描きながら。



気でも違えたのかも
しれない。







いけませんわ。
噂になって
おりますわよ？

白龍皇子、ここ最近では
随分と「お相手をしていらっしゃる」
ようじゃないですか

・・・ねえ・・・
白龍皇子・・・

わたくしの事も



黙って聞いてれば・・・

身に覚えがないなら
詳しく話してもら



幽霊？



興味本位で
そこを覗くと

あとをつけると、
私どもには立ち入る事の
出来ない廊下で



他の女官からの噂ですわ。
白龍皇子にうりふたつの男が

毎晩のように、お相手と
思わしき者を連れて
暗い廊下を歩いているのです

その先にある廊下の
前の部屋に
消えてゆきました



すると、その中から、
女の声と、色を含む声が
かすかに聴こえてくるそうです

ですが、皇子に関しては夜伽の話も
夜中に城を歩き回っているという
上からのお達しも無い事から
幽霊でも見たのではないかと



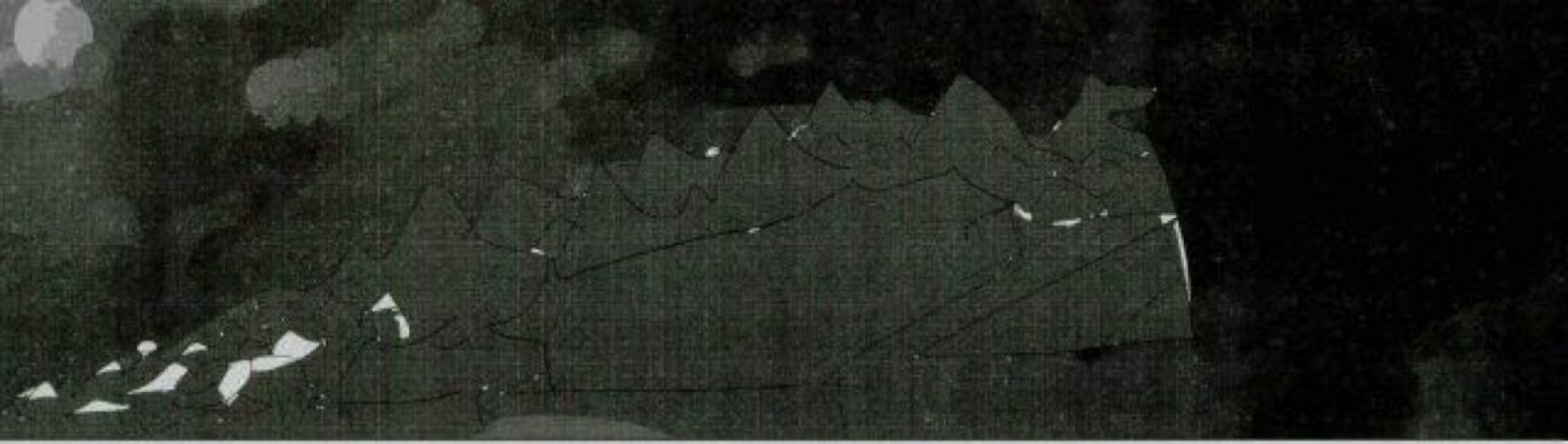
あほらしい・・・
幽霊だの何だの、似てるだけで
俺に幻想を抱いたり・・・
いや、それより・・・



女官が入れない
場所は
いくらでもあるが

そんな事が
出来るような部屋
なんてあったか？

少し、調べてみるか



ザガン

俺が呼ばない限り
誰か入ってくる
事はないだろうが・



すぐに戻る

あんまり
濡らすなよ

普段はやりにくい
が、紅炎がいない時期で
よかった。



見張りの者の目
かいくぐる事な
たやすい

あても無ければ
明確な部屋の形も
わからないが
目星はいくつか
つくかもしれない。



あくあくまたソレかよ



おまえつてさあ
そうゆうの、
ほんと好きだよなあ



探究心があるのは
悪い事じゃねえけど
若干アブネーわ。
お前がやると。

一度気になったら
とことんやるやつ



尊敬はするけどよ



ぎい



なんだ、
何もないじゃないか

だいぶ使われて
いるように
見えないが・

でも、
ここ合ってる
はずだ



たかだか女の噂話
そこまで気にするような
事ではなかったか？

しかし何か
ひっかかるような



白龍皇子？



続きを・

どうなされました？

あ・・しや
すまない

まだ鍛錬の途中だ。

そうですね

きっとお疲れなのですよ

さや...

最近、よく眠れて
いないのでしょうか？

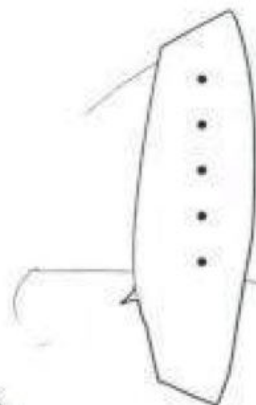
...

たとえば
夜中に

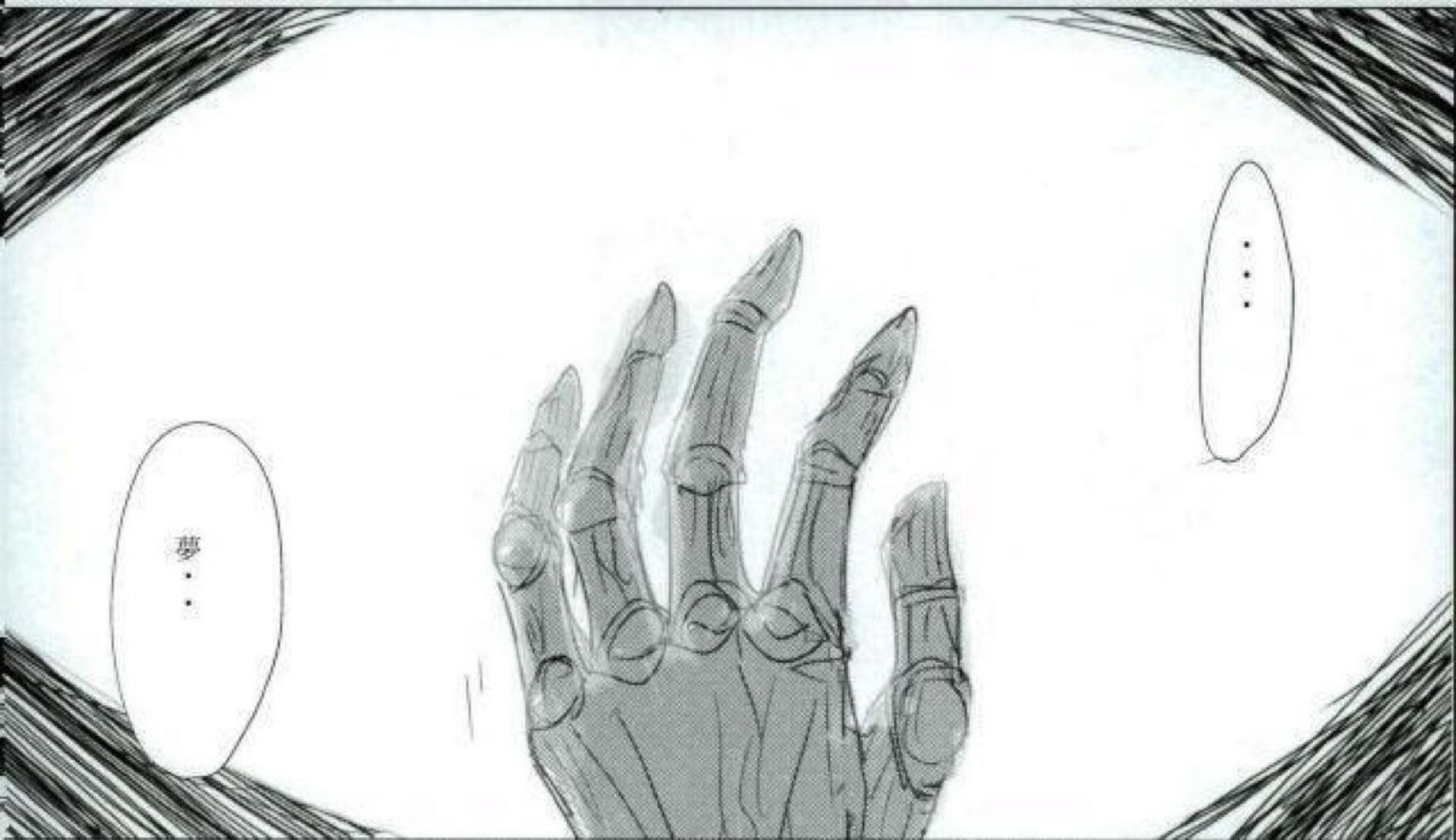
よろしくないことを
していらつしやるとか

白龍皇子？

そうだ、
俺は、



.....
?



気を失っていたのか・・・？



ほら

早く、母上の膝まで
おいでなさい

ごらんなさい

母上からの
贈り物ですよ

さつきから
何なんだ？！

あんなに欲しそうに
していたから

身体が
勝手に・・・？

ううん

まだ夢の中？

これは夢だ
現実じゃない

そう・・・
これは夢で

あ、さあ

夢・・・
なのに・・・？



そうよ
白龍

それは全部
夢なのですから



ああ・

あの雨の日の事は
忘れもしないわ。

あらあら

これでもう

何度目の夜になるのかしら・



こんな術にかかって
しまうなんて

はあ

大きくなっても
ぼうやは、ぼうやね



ああ・

そんなに喜ぶだなんて
思ってもいなかったわ

はあ

はあ

はあ

それに。



今も、とても素敵な夢を
見ているのね

はあ

はあ

はあ

白龍。







お勤めご苦労様です

よい夜を



はやく

はやく

はやく

はやく...



あそこへ

あそこへ

あそこへ

あそこへ

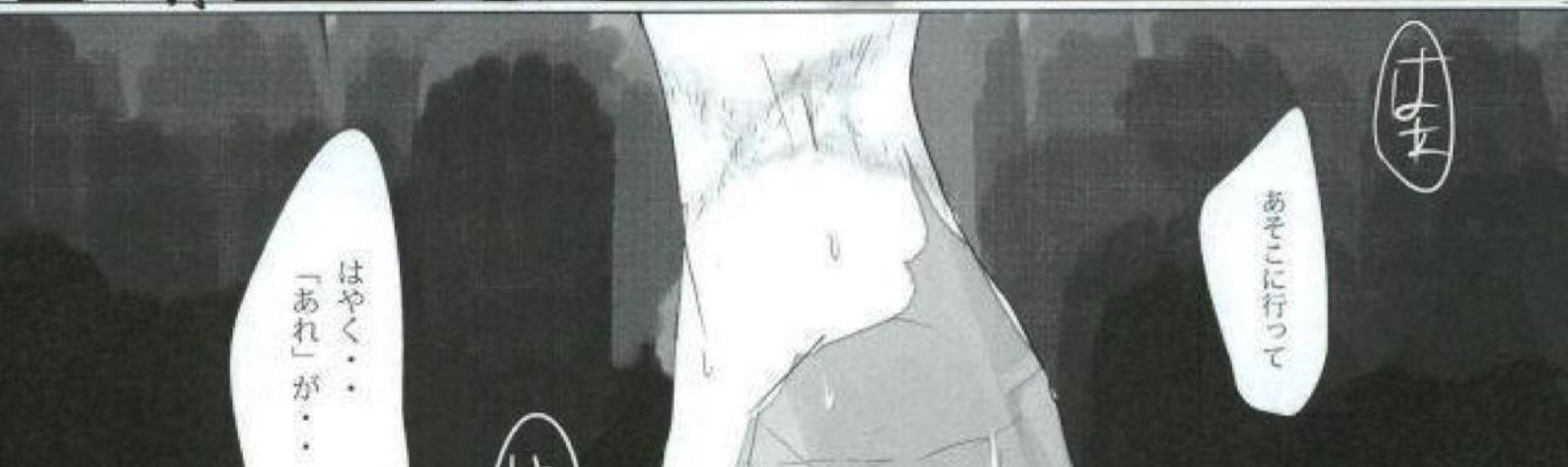
あそこへ

あそこへ

あそこへ

あそこへ

あそこへ



あそこへ

あそこへ

あそこへ





まあ・・・
いいか・・・

・・・

どうして俺は
あの部屋へ
行きたがって
いるのだろう





よくできました



夢から醒める事も
悪い事ではないと思うわ

それに

記憶がなくても
身体が覚えて
いる事ってあるわよね。



ねえ、白龍

このあいだの夜の事
覚えているかしら

あなたが

私を抱いた日の
事よ

あなたの

頭の中で。

自分だったから

夢で私という女を
犯す事で

現実から
目を背けたかったのよね

白龍・

かわいそうな
私の弟



心と体の矛盾のために

私に期待しないで頂戴



それとも、もともと白瑛の事を
そうゆう目で見てたのかしら

なんて



さあ、本当の
目覚めの時間よ
思い出すがいいわ

そして求めるの！
否定し続けようとも、
身体の内側から浸食され
身を焦がすほどの肉欲となり果てた
あなたのゆめの時間を

・は、はは

あは・は・

幽霊なんて馬鹿らしい。
俺だ。俺本人が、この部屋に
毎晩来ていたという事か

まるで
操り人形だ

今の俺には、足掻く力
など無いと分かっていて

なんて、下劣で
ずるがしこい女・

あの女の事だ。
わけのかわらん魔術でも使って
いたのだろうそうに違いない

でなければ、こんな
・ん・ん・ん
こんなものが
欲しかったなんて
ありえない事で・

いいですよ・・・

躰けられた以上、
飼い犬は飼い犬らしく

飼い主の手を
食いつぶせばいい

いいですよ・・・

躰けられた以上、
飼い犬は飼い犬らしく

飼い主の手を
食いつぶせばいい

いいですよ・・・

躰けられた以上、
飼い犬は飼い犬らしく

飼い主の手を
食いつぶせばいい











白龍・・・あなたが私に歯向かった
雨の日の事、覚えているわよね。
あの日以来、私は母上として
しっかりあなたを叱らねばと思ったの。

そこで、あなたが自慰行為に
明け暮れている姿を見て
思いついたの。

ただ叱るのではなく
あなたの才能を伸ばしてあげてこそ
母のつとめだと・・・



最初は幽閉して何人もの男を
仕向け壊してしまう事も
考えましたが、試しにあなたに催眠を
かけた初めての夜、その必要
は無いと確信しました

白龍にはもっと
才能があった

とても飲み込みが早かった。
私に笑顔を見せてくれもしない白龍が
かわいらしい顔をして喜んで
いるのですもの

あなたの見てきた
悪夢はおまけみたいなもの
折角だから、もっと深い
所まで行けるよう、毎晩
この部屋に来るよう貴方に
術をかけ、男を与え教育
させた。

つまり、
わたしは母として
あなたの背中を
押しただけ。

ああ・・・
とても楽しかった

白龍・・・

「魔女の息子」として
こんなに素晴らしい
末路はないと思うわ



ああ・なんて、無様で

美しいのかしら・・・

॥३॥

はし

はま！

義手が：

ぎしゅつ

すごいっ
ごりごり
してるっ・

かた・・・つ・・・かたくて、
きもちいっ・・・！！

あ、あ、あ、つ・
あうっ・あうう

はな

10

• • • • •



• • • • •

3/12

55







皇子・白龍皇子？

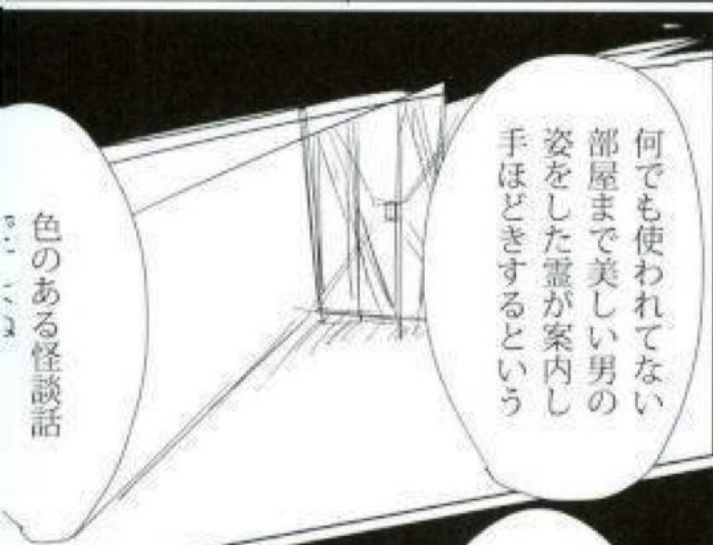
なんだ



ご存知ですか？

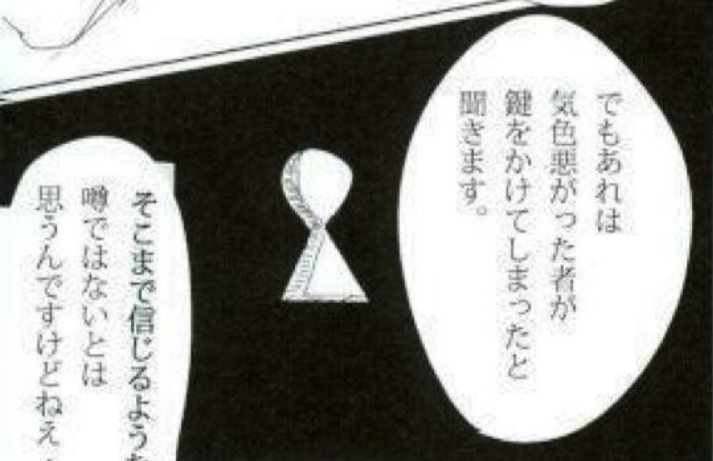
どこまで行く
ので・・・

え？



色のある怪談話

何でも使われてない
部屋まで美しい男の
姿をした霊が案内し
手ほどきするという



でもあれは
気色悪がった者が
鍵をかけてしまったと
聞きます。

そこまで信じるような
噂ではないとは
思うんですけどねえ・・・



白龍皇



この通路の奥に
ある部屋の話です

ああ、女官達の好きな
噂話ですか

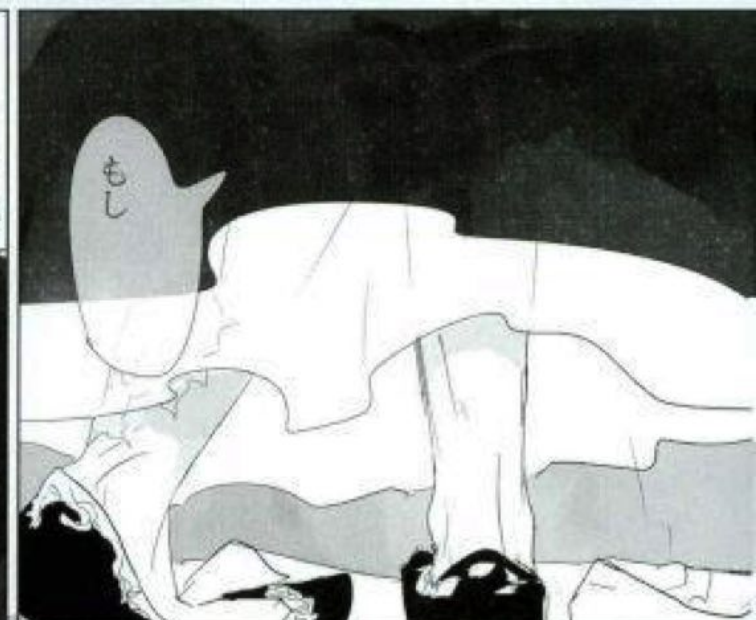


白っ・



皇子？

それが



もし



俺の事だと

して



こうして人気のない所まで、
獲物を連れ込み、あらぬところに
手を差し込んで迫ってみる

それだけやれば、どんな男も女も
簡単に手の内に入れる事が
出来てしまった。どちらにせよ
力では俺に適わないが・

そして、たった今も
こうして獲物を目の前に
猛獣は何か良からぬ事を
企んでいるようだ。

・なんて



本当だったら

ふんふんふん

終
完
約

淫獸覺醒

成人

R-18
指